

I 実践

1 研究主題

「一人一人が人権尊重の自覚をもち、認め合い、助け合う子どもの育成」

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は、「確かな学力をもち、たくましく生き抜く創造性豊かな実践人を育成する。」であり、目指す児童像は、「よく考え進んで学ぶ子」「明るく思いやりのある子」「心身ともにたくましい子」である。これらを受け、本校の人権教育の目標を「好ましい人間関係をつくり、誰に対しても優しく接することができる子どもの育成」「自分から進んで学習し、物事についての正しい見方・考え方を身につけた子どもの育成」「集団活動を通して、お互いに認め合い、助け合う子どもの育成」としている。本校の児童は、比較的落ち着いた学校生活を送ることができているように思われる。しかし、生徒指導部の学校生活調べの結果、全学年で毎月20名前後児童が「今いじめられていますか。」の質問に「はい」と答えている。この人権の課題を早期に全職員で適切に解決しなければならない。

そこで、いじめられていると感じている児童がゼロになるよう、少しずつ友だちとの関わり方や自分で解決しようとする気持ちや態度を育てていくことができ、人権感覚を涵養しお互いを大切にできる児童の育成を目指し、本主題を設定した。

(2) 研究内容

- ア 人権を尊重する人間関係づくり
- イ 人権を尊重する学習活動の推進
- ウ 人権を尊重する環境づくり

2 実践内容

(1) 人権を尊重する人間関係づくり

ア 高学年「スマイルプロジェクト」

思い数年前から6年生が最高学年として「みんながスマイルになる学校にしたい」という強い思いをもち話し合いで「あいさつ」「なかよし」「清掃」3つの実行委員を立ち上げた。

「あいさつ」では、はじめに声を出して、笑顔であいさつをしたい。挨拶をかわせば、話すきっかけが作れる。さらに「こんにちは」のあいさつもいつの間にか校内に響くようになった。「なかよし」ではさまざまな交流を通して、たくさんの人と出会い接し方を自然と学ぶ機会ができた。「清掃」では、毎日上級生の働く姿をみて自分と比較したり、真似たりとプラスの効果がみられた。

イ 縦割り班活動による異学年交流

異学年各クラスを12班に分けて縦割り班を作り、年間計画のもと、ほぼ毎月1回異学年集団で遊び交流を図っている。決められた活動場所でみんなが安全に楽しく遊べるよう話し合い活動が行われる。砂遊び集会などでは、異学年交流の場を地域の行事にも広げ海での砂遊び集会や浜の炊き上げ祭など、下級生を思いやった言動、上級生の姿を見て安心して活動することができた。教師も班編成では、児童の実態を把握し支援の必要な児童を配慮しながら観察や指導にあたることができた。



(2) 人権を尊重する学習活動の推進

ア 三世代敬老の集い

1 学期後半から、「地域のお年寄りの方を笑顔にしよう」「地域のお年寄りの方に元気をあげよう」を目標に。お年寄りの方々に対して、児童の優しい歌声、明るく元気な歌声、合奏、浜太鼓、ダンス、肩たたきや握手などふれあいを通していたわりの心、感謝の心を育てた

イ 人権教室への参加（3年生）

「人権って・・・」と児童に投げかけて、人権擁護委員の先生方からの話を聞き、「自分ならどうするかな」と自分に問いかけ考える機会をつくることができた。ロールプレインは、こうかてきであった。いじめの問題を真剣に考え

ウ ハッピースマイル大作戦

6年生の「スマイルプロジェクト」を受けて、もっと学校が楽しくなるようにいじめゼロを目指そうと、特活部を中心に「ハッピースマイル大作戦」という集会を実施した。各学級で「笑顔を増やすスローガン」を発表したり、児童一人一人が書いたメッセージ掲示したりした。さらに、全校児童が異学年の児童と触れ合ったり、歌を歌ったり、寸劇をしたりといじめについて考える機会をつくることができた。



(3) 人権が尊重される環境づくり

ア ハートいっぱいけやきの木

一階階段わきに、「ハートいっぱいけやきの木」を作り、さまざまな授業や学級の問題、行事などを通して、児童が感じ取った気持ちをミニメッセージとして書き掲示していった。その際、担任からも温かいコメントをもらい、けやきの木がどんどんハートいっぱいになっていった。また、校内にある花や木を使い、6年生を中心にみんなで人権リースを作った。特別教室の入り口に飾り、校内を明るくすることができた。

イ 「人権メッセージ」の取り組み

自分の良いところ発見や「ハッピースマイル大作戦」を通して、生活する中で必要な言動などについてメッセージを書いて掲示し、人権に対する意識を高めることができた。

3 成果

- (1) 学校生活全体を通して、上級生が自然と下級生に心くばりをし、下級生は上級生を手本とする態度が育ってきた。心のふれあいが学校に元気で温かい雰囲気を作り出している。
- (2) 教育活動全体を通して、自分以外の人も認め、尊重する態度が養われてきている。継続したり繰り返し学習したりすることで人権尊重の意識が深まっている。

II 今後の課題

教職員の人権意識の向上も不可欠であるので、校内研修などをさらに充実させ、継続的に人権感覚の涵養を図りたい。子供たちに芽生えてきた自他ともに大切にする気持ちをさらに育てていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子



ハートいっぱいけやきの木 みんなの手作りリースで明るい校舎 いじめゼロのスローガン

集会後の気持ち